

大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 北海道大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプA(インド)))

持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム(STSIプログラム)

【事業の概要】

インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題について、日印の人材がチームを作りこれに取り組む際、その成果を最大化できるような能力を有する人材を育成する。本プログラムでは、基礎論と日印双方の言語・文化基礎を学習し、その後具体的なテーマ設定を行ってインターンシップを行う。また、コンソーシアム参加企業の協力のもと、「日印サステナブル開発コンソーシアム」を設立し、持続的な人材交流と育成を目指す。

【日印サステナブル開発コンソーシアム】



北海道大学の5部局

工学院・工学部 輸送システム、社会インフラ
情報科学研究科 通信インフラ、社会ビックデータ
環境科学院 環境インフラ、衛生管理
公共政策学 インフラ政策、環境政策
電子科学研究所 エネルギー、社会ビックデータ

交流学生数

インド学生
80人

日本学生
80人



【交流プログラムの概要】

本プログラムの基礎論、日印双方の言語・文化基礎を事前学習し、その後具体的なテーマ設定を行って短期インターンシップを行う。さらに、長期滞在プログラムでは、単位互換を伴う専門科目の学習も行う。そして、日印メンバーが混在するチームで共同研究を実施して、インドの持続的課題に対して、異なる専門性の視座から議論することによって、「チームワーク型国際共同研究力」を育成する。FDや外部評価、教育交流研究会等を行い、プログラムの質の向上に努める。

【本事業で養成する人材像】

インドが抱える輸送システムと社会インフラ及び環境に関する課題について、自らの専門性を活かしつつ、日印メンバーの強み・弱みを認識するチームを編成し、課題解決にむけて成果を最大化できるようなチームワーク型国際共同研究力を有する人材。加えて、輸送システムや社会インフラ構築の正の側面だけでなく、その環境影響や周辺住民への影響など、負の側面も包含した持続可能な開発を実現できる人材。

【本事業の特徴】

日印サステナブル開発コンソーシアムを構築し、人材育成に有効な産官学連携ネットワークを形成する。そしてインドが抱える輸送システムと社会インフラ及び環境に関する課題の解決に当たる。学生の成果報告会は、コンソーシアム参加企業の出席のもとで実施し、成果の評価や将来の課題について助言を得るほか、本事業期間終了後も、派遣／受入事業にかかる資金の共同出資やインターンシップによる人材交流の維持を可能にする。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	5	15	18	21	21
学生の受入	5	15	18	21	21